



インスピレーションになるう

WEEKLY REPORT 2018~19

国際ロータリー第 2780 地区第5グループ

相模原大野ロータリークラブ

- ◆会 長:座間 勇 ◆幹 事:布野 一喬 ◆副 会 長:齋藤美希子
- ◆S A A:中丸 剛 ◆会報委員:宮崎雄一郎 ◆URL:<http://www.s-oono-rc.jp>
- ◆事 務 局:〒252-0238 相模原市中央区星が丘 3-5-16 ◆TEL/FAX:042(755)0901
- ◆例 会 場:相模原ゴルフクラブ 〒252-0331 相模原市南区大野台 4-30-1
- ◆例 会 日:毎週水曜日 12:30~13:30 ◆E-mail:oono-rc@mx1.alpha-web.ne.jp

平成 30 年 11 月 28 日 第 1204 回例会

会長の時間:座間勇

今日は皆さんにご報告があります。我がクラブのチャーターメンバーである大谷豊さんが、1月より復帰してくれるそうです。現在は相模原東 RC の会員ですが、12 月中旬に退会届を提出すると連絡を頂きました。12/12 の例会には、角尾会員紹介の平田徹さん（ユニックス）に卓話をお願いしてあり、会員増強に繋がればと期待しています。22 日（土）の Xmas 例会には、出来るだけ多くの方にご参加頂きたいと思います。今回は出欠に関わらず、全員登録の形をとらせて頂きます。お子さんは無料とし、会費の中からプレゼントまで賄えるよう計画しますのでご了承ください。楽しい Xmas 会にしたいと思いますので、宜しくお願いします。

幹事報告:布野一喬

- ・社会・国際奉仕セミナーアンケート集計表
- ・ロータリーの友事務所 2017-18 年度事業報告書
- ・H30 年度「福祉のまちづくり研修会」の案内
12/8（土）13:30 あじさい会館
- ・H31 年度献血日程調査について 返信:12/20迄

例会変更 ※ビジター受付＝クラブ事務局 ※受付無
12/7（金）相模原グリーン※ 12/11（火）大和

委員会報告

皆さんのお手許に、ロータリーの友 12 月号が届いています。横組み 25 ページに、8/22 の「ひばりの夢コンサート」の記事が掲載されていますのでご覧ください。

クラブ協議会/車椅子プロジェクトについて

座間会長: 相模女子大の「海外に子ども用車椅子を届けよう！」プロジェクトに関わり、4~5 年になるかと思えます。実際には「もんじぇ祭り」の手伝いで、経費は掛かっていません。支出としては、創立 25 周年の記念事業として 10 万円を贈りました。この繋がりを今後も続けるかどうかを話し合いたいと思います。私としては財政的な負担もありませんので、敢えて止める必要があるか否か、迷っています。

藤井会員: 当クラブとしては、「ひばりの夢コンサート」

を今後も継続して行うことになっており、こちらに注力したほうが良いと思います。限られた会員数で行う奉仕活動ですから、絞るべきではないでしょうか。

座間会長: 地元の大学との折角の繋がりで、大事にしたいという思いもあります。「車椅子」だけでなく、拡がり期待できる可能性もあります。先週の角尾会員の卓話にもあったように、将来的に IAC や RAC 設立の可能性もあると思っています。

布野幹事: 「車椅子プロジェクト」に関して、自分たちが出来る奉仕活動は、もんじぇ祭りでの募金集めの手助けだけで、学生達だけで十分事足りているのかなと感じています。そこに我々が、敢えて参入する必要性はあるのかなと思っています。「車椅子プロジェクト」として、調達・修理点検・海外へのルート等、連携が既に出て上がっているものに対して、ロータリーの活動として続ける意味があるのか疑問です。

齋藤会員: このプロジェクトに関して、我々が如何に関わるのか、今一つはっきり見えていません。もんじぇ祭りの際の荷物の搬入搬出だけで、ロータリーの奉仕としてするのであれば、車椅子プロジェクトの一輪となって直接関わる事が本分だと思います。続けるにしても荷物運びだけでこのまま行くのか、もっと発展させて「車椅子プロジェクト」に入り込んで行けるのか、その辺りが不明確だと感じています。

座間会長: やはり、会員数が少ない事が壁になっていて、人手も予算も足りないという事だと思います。

齋藤会員: 仮に会員数が増え、人手・予算共に十分あったとしたら、どういう風に関わって行くというビジョンがあるのでしょうか。

座間会長: そこまでは考えていません。仮に、そうなったとすれば、双方の話し合いが必要になりますが、実際問題として現状では難しいと思っています。創立 25 周年で寄付をして感謝状を頂いたように、地元のニーズを作るための足掛かりではあるかもしれませんが、相模女子大との関わりの中で、「車椅子プロジェクト」

だけでなく、そこから拵りが出てくる事があるのではないかと、私は考えます。

齋藤会員：相模女子大側から我々に、金銭的なものを含めて何か要望があるのでしょうか。また、どのような関わり合いを求めているのでしょうか。

座間会長：金銭的な要望はないと思いますが。

角尾会員：私は小泉先生や学生達と、約5年間最も関わってきたと思っています。小泉先生との話の中で、ロータリーが関わる意義を話したことがあります。先生は、学生達が社会に出るにあたって、社会奉仕の経験の有る子と無い子では全く違うと仰っていました。小泉先生のプロジェクトは、学生達に社会奉仕を経験させて、社会に出て活躍できる人に育てたいという事に、私は感銘しました。その部分にロータリーとの接点があると思っています。毎年、学生たちと関わる中で、荷物運びだけでなく、販売や仕入れ等相談されることも多々ありました。「車椅子プロジェクト」をバックアップしているのではなく、“社会奉仕を手伝う”と言う部分のバックアップと思っています。勿論、金銭的な授受は全くありません。その中で、私達にも学生たちにも勉強になるところがあり、そこに意義があるので、私は続けるべきだと思っています。

田所会員：角尾会員の意見は、本来目指すべきところとは異なる方向の発言だと思いました。以前もお話したことがあります。小泉先生がやられていることを、本来我々がやるべきだと私は思っています。現在の活動は「車椅子プロジェクトをやっている学生を手伝っている」プロジェクトです。そこを勘違いしてしまうと、間違った方向に行ってしまうので、関わりを持つのであれば、別の事を考えて関わるべきだと思っています。

小口会員：金銭的支出もなく、能力も不要なら残しても良いのかと思いますが、逆に言うと、完成している活動の中で成長しながらやっているので、外部の助けは要らないのではないかと思います。もう一つは、もんじえを手伝うにしても、その前後に何かインフォメーションがあっても良いのかなと思いました。当日行っても学生達から「この人誰？」と言うように見られた事もあります。一方的に我々が人を出し手伝って、創立25周年で寄付してと言う状況は、本来のロータリー

出席報告 の奉仕とは違うような気がします。

先程会長も、実のある中身作りは今のままでは難しいと言っていましたので、25周年を区切りとし、数年経ってクラブに実力が付けば、その時に改めて考えれば良いと思います。角尾会員が、学生達とは相談される関係だと言っていました。それはRCと学生との関係ではなく、角尾会員個人と学生との関係になってしまっていて、他会員は全く知らされていません。結局、クラブ内で盛り上がっていないという事だと思っています。

角尾会員：皆さんの意見はご尤もで、納得できますが、どうすれば良いのか、行事に対して組織立った形になっていないことが一因だと思います。提案書の提出、理事会決定、会員告知と言う流れが、残念乍ら出来ていません。クラブ運営をきちんとした形にして行く必要があります。将来的にIACやRAC設立の礎になると思いますので、私としては残すべきだと考えます。

座間会長：関わりを深めるなら、募金箱を持って活動資金集めに協力することもできます。

藤井会員：この人数で出来ることは限られますし、25周年で一旦区切りをつけて、出来るようになった時に再開する事も一つの方法だと思います。今は一つひとつ確実に出来ることに集中して、会員が増え余裕ができた段階で、活動範囲を広げて行けばよいと思います。

布野幹事：私達よりパワーがある学生達ですし、既に出来上がっているプロジェクトに対して、我々が後押しする必要があるのか疑問に思います。

角尾会員：私は、社会奉仕や青少年奉仕の意味も兼ねている活動だと思っています。

小口会員：我々が「車椅子プロジェクト」に直接関わるなら意義がありますが、学生達が頭と労力を使い苦勞して資金集めをするのも大事な経験で、それを手伝う事は過保護ではないでしょうか。

田所会員：先日の卓話で“ロータリアンの矜持”と言う話をしましたが、「車椅子プロジェクト」への関わり方は、胸を張って言えないと感じています。

布野幹事：この件は今後も継続協議する事として、「ひばりの夢コンサート」実行委員会を早急に組織し発表します。指名された方はご協力宜しくお願いします。

米山功労者表彰

田所 啓二 会員 (第5回)

小口 伸夫 会員 (第2回)



会員数	免除者	出席者	欠席者	他 RC メイク	その他 R 活動	本日の出席率	修正出席率
14名	1名	7名	6名	1名	1名	53.85 %	11/14 69.23 %